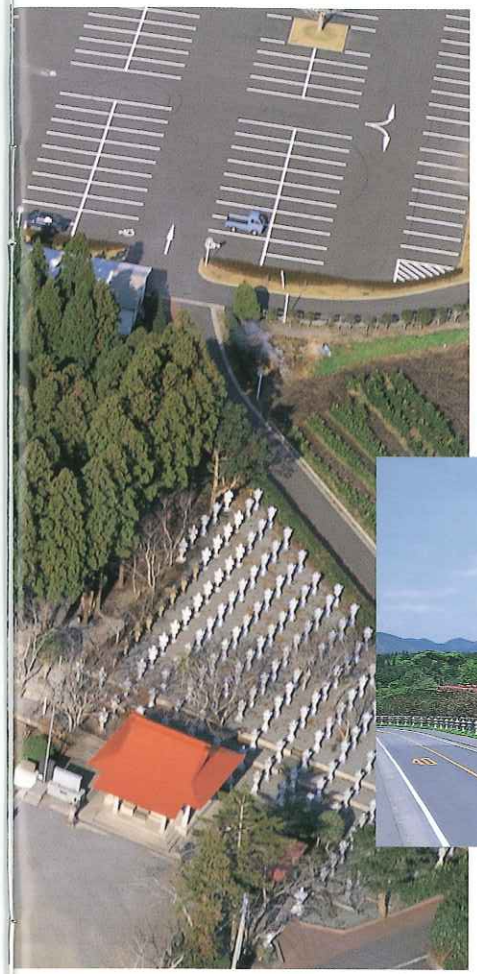
知覧特攻平和会館

鹿児島県
知覧町

知覧の町並みの薩南工高前から平和公園までの約1,700メートルを「平和祈念通り」として、戦没特攻隊員と同数の石灯ろう1,036基を建立。財源は全国から寄せられた浄財で建立しています。



特攻平和会館について

この特攻平和会館は大東亜戦争（戦後は太平洋戦争ともいう。）の末期、沖縄決戦において特攻という人類史上類のない作戦で、爆弾搭載の飛行機もろとも肉弾となり、一機一艦の突撃を敢行した多くの特攻隊員の遺品や関係資料を展示しています。

私たちは、特攻隊員たちの崇高な犠牲によって生かされ国は繁栄の道を進み、今日の平和日本があることに感謝し、特攻隊員のご遺徳を静かに回顧しながら、再び日本に特攻隊をつくってはならないという情念で、貴重な遺品や資料をご遺族の方々のご理解ご協力と、関係者の方々のご尽力によって展示しています。

特攻隊員たちが帰らざる征途に臨んで念じたことは、再びこの国に平和と繁栄が甦ることであったろうと思います。

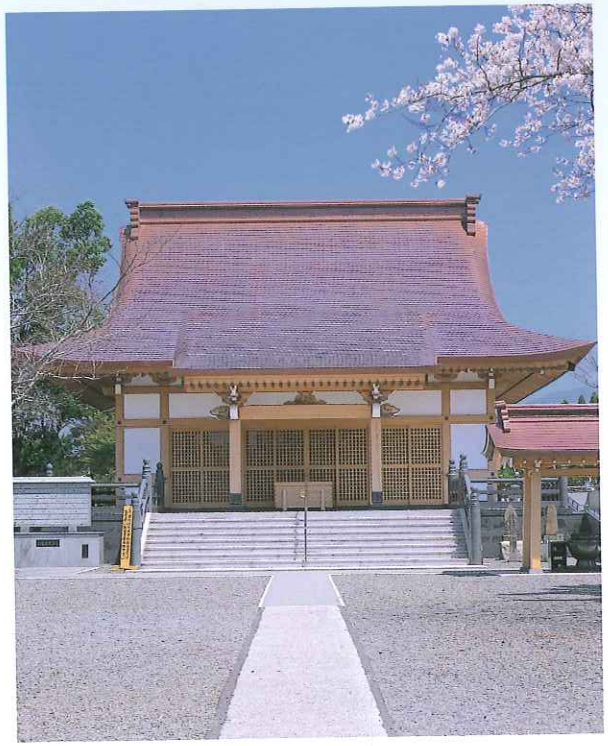
この地が特攻隊の出撃基地であったことにかんがみ、雄々しく大空に散華された隊員の慰霊に努め、当時の真の姿、遺品、記録を後世に残し、恒久の平和を祈念することが基地住民の責務であろうと信じ、ここに平和会館を建立した次第であります。

特攻平和観音の由来

この地は昭和17年３月大刀洗陸軍飛行学校知覧分校が設けられて連日隊員の訓練を重ねたところであったが、国際状勢の次第に緊迫し険悪となるにしたがい遂に昭和20年本土最南端航空基地として陸軍最後の特攻基地となり凡そ一千の若き勇士が莞爾として雲流るる果て遥か逝いて帰らざる壮途につかれた思い出深い土地である。これら若人の至情至純の精神を顕彰し悠久空しく散華せる御霊のとこしえに安らかならんことを祈念し以て祖国の久遠の平和復興に資せんため関係旧将士の浄財を集めてつくられた特攻平和観音像を今この念願を同じくする有志等の願望により、このゆかりも深い知覧町旧飛行場跡に奉安する。尚その一体は海軍のそれと共に東京都世田谷山観音寺内特攻観音堂に安置されてあるが、この観音像は大和法隆寺の秘佛（夢ちがい観音）を模造したものであり高さ一尺八寸体内に特攻勇士の芳名を謹記した巻物が納入されている。茲に知覧町民の浄財をもって堂宇を建立し一千勇士の御霊を永遠に鎮めまつり、その精神を顕揚して以て祖国平和復興を祈念するためいささか由来を述べて碑文とする。

知覧町長　飯野　武夫　撰

昭和30年９月28日建つ



特攻平和会館の整備について

知覧町長
霜出　勘平

知覧は大東亜戦争（戦後は太平洋戦争ともいう。）の末期、沖縄戦の劣勢を一挙に挽回するため、人類史上類例のない特攻作戦が展開されたゆかりの地であります。

知覧町は戦後、いち早く町民や関係者の浄財によって悠久空しく散華された特攻勇士の、とこしえに安らかならんことを念じ、観音堂や特攻銅像を建立し、慰霊の顕彰に努めてきました。

また、昭和50年３月には公園休憩所を利用して遺品館を開設しましたが、手狭なうえに全国各地から訪れる人々は多くなり、往時の痛ましくも悲しい事実に大きな反響が寄せられました。

特攻平和会館は、国が推めております地域の特性を活かしたまちづくり特別対策事業の一環として、知覧町が昭和60年度から２か年の継続事業として工事費５億円で建設したもので、全国各地の遺族や関係者から寄せられた貴重な遺品や資料の滅失散逸を防止する一方、さらに収集、保存、展示に努め、これらの史実を後世に正しく伝え、世界恒久の平和に寄与しようとするものであります。

平成11年５月

陸軍４式戦闘機「疾風（はやて）」(キー84甲)

知覧基地には飛行第103戦隊の疾風40機が駐留し、特攻機の直掩・誘導や邀撃（ようげき）にあたりました。（一部徳之島基地駐留）

沖縄戦では特攻機にも使用され、宮崎県都城東・西両基地を中心に出撃し、118機が未帰還となっています。うち知覧基地から４機出撃し２機未帰還となっています。

この“疾風”は、昭和20年１月フィリピンに進攻した米軍が完全修復し、機能テストの上、その後米国の私設航空博物館に払い下げられ、昭和48年里帰り飛行を行った後、日本の一業者に買い取られ栃木県宇都宮、京都嵐山美術館、和歌山県白浜御苑を経て、知覧町が取得し、知覧特攻平和会館へ展示されることになったものです。

陸軍3式戦闘機「飛燕（ひえん）」（キー61Ⅱ改）

この飛燕は、日本陸軍の名機とうたわれた３式戦闘機（２型改）で全長9.16メートル、全幅12.0メートル、最大時速約590キロメートル、20.0ミリ機関砲２門、12.7ミリ機関銃２挺を装備した当時日本唯一の液冷式の新鋭機でした。

昭和20年５月11日知覧基地から第55振武隊長黒木国雄少尉（宮崎県出身）ら第55、66、165、110振武隊は飛燕に爆装し49機（その他の基地から全部で103機）が飛び立ち散華しています。

この機は、日本航空協会（東京）が所有するもので、現在は日本にただ一機現存する貴重なものです。日本航空協会のご配慮によって特攻隊の鎮魂の象徴としてここに展示保存することになりました。

海軍零式艦上戦闘機

この零戦は、昭和20年５月鹿児島県甑島の手打港の沖約500メートル、水深約35メートルのところに海没していたものを知覧町が昭和55年６月引き揚げたものです。

機体は35年間海中にあり、無残な姿ですが、往時をしのぶ姿をとどめています。機体は旧海軍の零式艦上戦闘機52丙型で、20ミリ機関砲２門、13ミリ機関銃２挺を装備しています。

隊員の写真・遺書・絶筆

写真・遺書・遺品等約4,000点が展示される。立体ケースには「日の丸寄せ書」や遺書・絶筆・遺品等が展示されている。

出撃から突入まで（特攻勇士）／隊員の最後の姿をテレビ映像で見ることができる。

知覧の基地模型／知覧基地の当時の配置が一目でわかり、ボタンを押すとその位置が明示される。

残された者からのコーナー（VTR）／鳥浜とめさんや他の生き残りの人たちの証言を映像で見ることができる。

若き特攻隊員の英霊コーナー

1,036柱の隊員の遺影が出撃戦死した月日順に掲示されている。その下には家族・知人にのこした遺書・手紙・辞世・絶筆等が展示してある。

戦史資料室

西南の役から大東亜戦争までの各種戦史資料が展示されている。

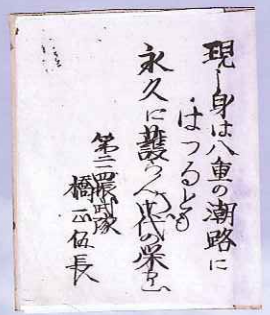
別館展示室

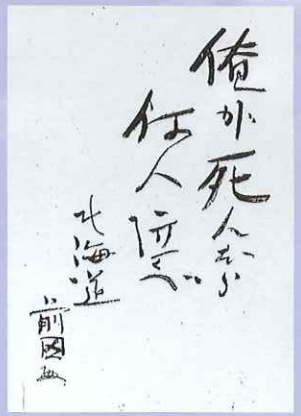
復元された１式戦闘機「隼」

実物の10分の８の大きさで再現した模型。元少年飛行兵19期生だった勝力和太氏（山口県）がかなえられなかった夢を再現したもの。

主に沖縄特攻隊以外の戦隊や関係の人たちの遺影・遺書・遺品を豊富に展示している。

双眼鏡





飛行帽

レシーバー

マスコット

ハチマキ

飛行時計

寄せ書きを書く隊員。

出撃前夜（うでずもう）

出撃前仔犬と遊ぶ特攻隊の若桜。

この地は、昭和14年ごろから陸軍飛行場としての調査がはじめられ、ついで昭和15年建設に着手。大東亜戦争（戦後は太平洋戦争ともいう。）が勃発した直後、すなわち昭和16年12月24日に大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所として正式に開校された。

翌昭和17年１月30日、第10期陸軍少年飛行兵78名の紅顔の若鷲たちが操縦教育を受けるため、完全武装の姿で知覧駅に到着。駅頭を埋めた町民たちの熱狂的な大歓迎を浴び、飛行場まで歩武堂々の隊列行進をした。95式練習機（赤トンボ）による初飛行は２月４日に行われた。

南国とはいえ寒風肌を刺す厳冬のなかで、一撃必殺の闘魂に燃えた若鷲たちの必死の訓練は猛烈を極めた。従って、この日を境にそれまで静かなたたずまいの城下町であった知覧町は一転して爆音に明け暮れた。だが、当時この飛行場が３年後に至り、痛恨無比の特攻肉弾の基地になろうとは町民のだれもが夢想だにしなかったことであろう。

昭和20年連合軍による飛石進攻作戦はすさまじく、戦局は急速に衰退の一途をたどりつつあった。同年３月25日、敵は遂に沖縄防衛戦の一角、慶良間列島に上陸を開始するにおよび戦局は最悪の事態を迎えた。そこで、これまでの敗勢を一挙に挽回する手段として、世界戦史にその類例をみない一機よく巨艦を屠る、必死必中の体当たり攻撃（陸軍ではフィリピンのレイテ戦のおり、既に特攻隊が編成され、その第一陣は昭和19年11月12日、特攻“万朶隊”の５勇士がレイテ湾に散った）が敢行された。沖縄特攻で散華された1,036柱の隊員は、知覧基地を主軸に万世、都城基地や第８飛行師団は台湾各基地から義烈空挺隊は健軍基地（熊本）から出撃した。

知覧町では、これら特攻勇士が身を以て示された崇高至純の殉国精神を顕彰、ご英霊をお慰め申し上げ世界の恒久平和を祈念するため、関係旧将士ならびに念願を同じくする有志一同の浄財をもって、知覧町旧飛行場跡に“特攻平和観音堂”を昭和30年９月28日に建立し観音像を安置している。

特攻平和観音堂・特攻銅像・

勇士たちの永遠の冥福と

出撃を見送る女学生。

別れの盃。

出撃 20 分前の腹ごしらえ。

母の像・特攻平和会館の由来

世界恒久平和を願って

この観音像は陸海軍特別攻撃隊烈士の不滅の英霊を平和観音堂に顕現して、その忠烈な偉業を顕彰し、永遠のご冥福をお祈りするため、元海軍大将及川古志郎、同高橋三吉、元陸軍大将河辺正三、元陸軍中将菅原道大、元海軍中将寺岡謹平等の諸氏が発起人となり有志の方々に喜捨を仰ぎ昭和27年春特攻平和観音としてつくられたもので、この観音像は大和法隆寺の夢殿に奉安してある秘仏「夢ちがい観音像」を特別のお許しを受けて謹鋳した。54センチの金銅像で現在一体は東京都世田谷の世田谷山観音寺の特攻観音堂に安置されて毎年秋分の日に法要が行われており、同じ一体を当時の航空総軍司令官河辺正三大将、第六航空軍司令官菅原道大中将のお二人が知覧に是非お祀りしたいと持参されたのが知覧特攻平和観音である。この観音像の体内には特攻勇士の芳名を謹記した巻物が奉蔵されており毎年５月３日（平和憲法記念日）には知覧特攻基地戦没者慰霊祭が盛大に挙行される。

なお、浄財は、昭和49年、平和の守護神として大空にそびえたつ特攻銅像「とこしえに」となり、昭和50年、崇高なご遺徳をしのび恒久の平和を願う特攻遺品館（昭和57年改装）や、昭和57年、特攻隊員が出撃前夜、今生最後の夢を結んだ三角兵舎の復元（知覧特攻平和会館東隣）となった。

又、昭和61年には、「とこしえに母と共にやすらかに」の願いをこめて、母の像を前田将氏（熊本県）が建立された。以来、年毎にふえる観覧者や遺品類に特攻遺品館が手狭になり、知覧町が、まちづくり特別対策事業により昭和60年度から２か年継続で知覧特攻遺品館を知覧特攻平和会館と改称して新築した。

更に、平成 16 年５月には、第 50 回知覧特攻基地戦没者慰霊祭を記念して、篤志家の大口浄財のご喜捨と併せ、木造平家建銅板葺に改築。しめやかな中にも、厳粛な落慶法要が営まれた。

これらの施設は、特攻勇士が安らかに眠られる特攻平和観音堂とともに、日本民族の平和への象徴として知覧木佐貫原原頭（旧陸軍特攻基地跡）に永遠に光り輝くことでありましょう。

特攻勇士の像

「とこしえに」

特攻機は遂に帰って来ませんでした。国を思い、父母を思い、永遠の平和を願いながら、勇士は征ったにちがいありません。特攻銅像「とこしえに」は、全国の心ある人々によって建てられました。

昭和49年知覧特攻慰霊顕彰会が建立。
日展審査員　伊藤五百亀氏制作。

み霊のとこしえに安らかならんことを祈りつつ
りりしい姿を永久に伝えたい心をこめて
ああ、開聞の南に消えた勇士よ

母の像

「やすらかに」

特攻銅像「とこしえに」の前に当時の正装をした優しい母の像を再現。裏面に「やすらかに」と刻銘されています。

熊本県芦北町の前田将氏は、多くの隊員が「お母さん、お母さん」と書き残しておられる遺書などに深く感涙。
ぜひ母のみ胸にやすらかに眠って欲しいという一念から発意。
私財を投じて寄贈。富山県高岡市の石黒孫七氏の制作による。昭和61年3月建立。

夢たがい観音

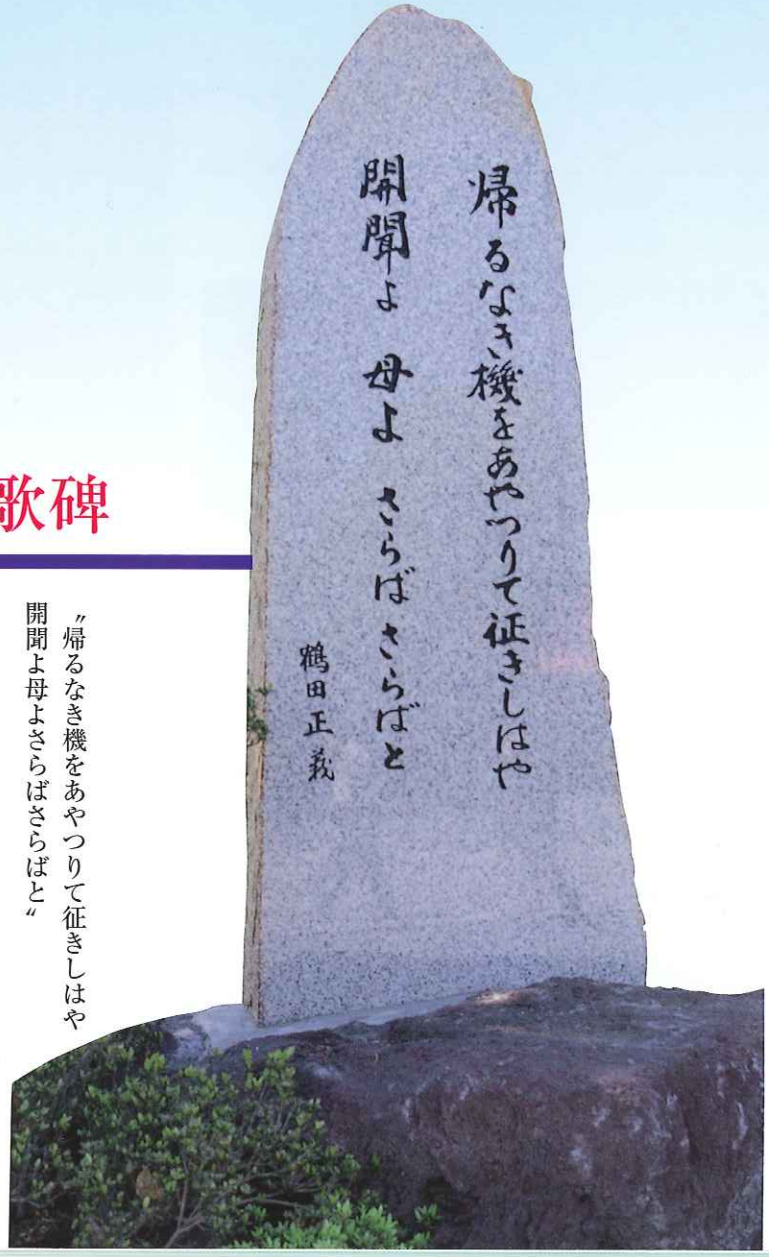
高さ5メートルの石造の〝夢たがい観音像〟
平成元年4月、有志の浄財で世界の恒久平和を
願い建立された。

この石像は全国少飛会、鹿児島県少飛会、前迫石材株式
会社、知覧特攻慰霊顕彰会が共同して建立したものです。

特攻歌碑

〝帰るなき機をあやつりて征きしはや
開聞よ母よさらばさらばと〟

「にしき江」の主幹鶴田正義氏の歌を知覧の歌人たちが……
多くの特攻隊員が辞世をのこして飛び立ったこの地に
昭和63年10月15日建立した。



概　　要

1. 所 在 地／鹿児島県川辺郡知覧町郡17881番地
2. 敷地面積／10,037.85平方メートル
3. 延床面積／1,559.07平方メートル
4. 建 設 費／総事業費５億円
5. 着　　工／昭和60年12月８日
6. 竣　　工／昭和61年12月13日
7. 構　　造／鉄筋コンクリート造平家建
8. 施設設備／（全館冷暖房）

◆ロビー……201.31平方メートル

◆大展示室……837.00平方メートル

●陸軍特別攻撃隊　●知覧特攻基地
●特攻基地への前進　●若き特攻隊員の英霊
●出撃　●特攻勇士
●知覧の日　●残された者から

◆零戦展示室……125.07平方メートル

◆戦史資料室……126.00平方メートル

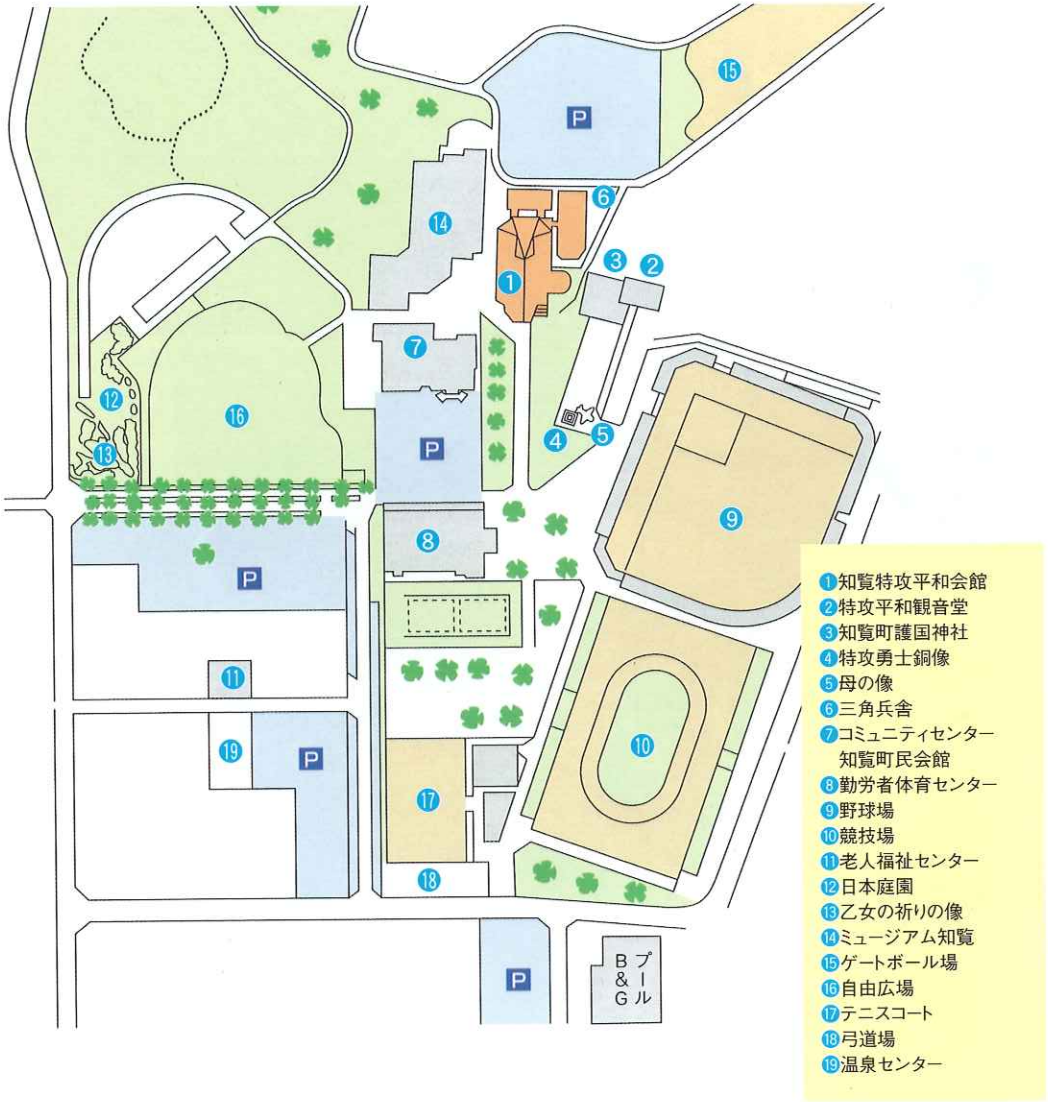
◆その他の施設……269.69平方メートル

事務室・休憩室・電気室・空調室・倉庫・トイレ

9. 工事関係者

設計監理／株式会社岩崎建築設計事務所
建築工事／熊谷組・鶴留・堀之内建設共同企業体
内装展示工事／株式会社　丹青社

周　辺　図

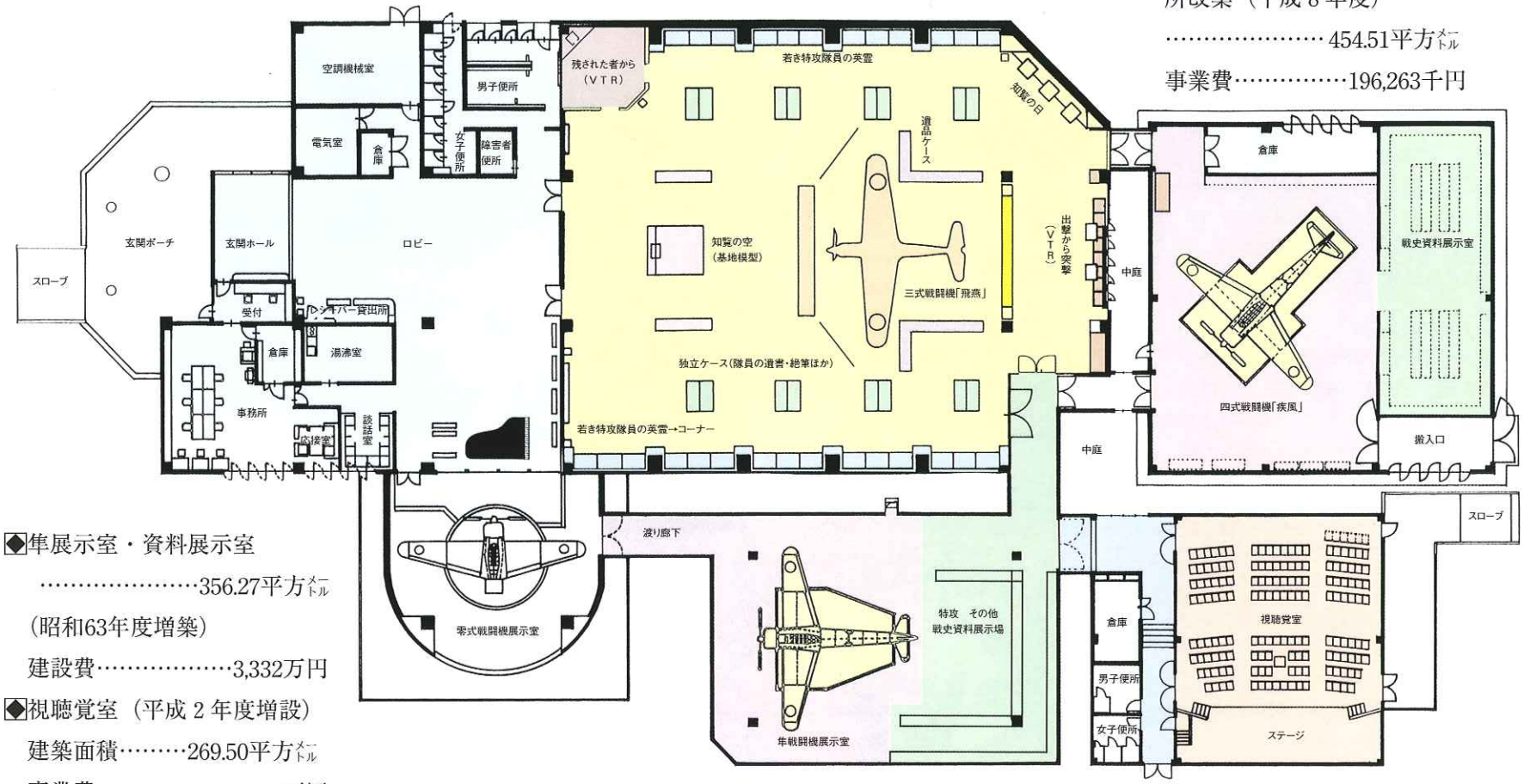


平　面　図

◆疾風展示室増築・出入口事務所改築（平成８年度）

……454.51平方メートル

事業費……196,263千円



◆隼展示室・資料展示室

……356.27平方メートル

（昭和63年度増築）

建設費……3,332万円

◆視聴覚室（平成２年度増設）

建築面積……269.50平方メートル

事業費……6,109万円

座席数……200席

ミュージアム知覧
MUSEUM CHIRAN

はるか南の海を渡って来た文化と、遠く北の山々を越えて伝わった文化の交錯する波を紹介します。

主な収蔵資料

- 南薩摩の民俗資料
- 知覧武家の調度品
- 中世知覧城からの出土遺物
- かくれ念仏資料
- 郷土出身の画家作品など

交通のご案内

知覧町から

鹿児島市まで34km

指宿市まで37km

知覧特攻平和会館

〒897－0302　鹿児島県川辺郡知覧町郡17881番地
TEL0993－83－2525　FAX0993－83－4859
http://www.synapse.ne.jp/~ chiran

会館のご案内

開館期間	1月1日から12月31日まで ただし、都合により休館することがあります。
開館時間	午前9時から午後5時まで ただし、入館は午後4時30分まで、又都合により開館時間を変更することがあります。
観覧料	個人●大人500円小人300円 団体●大人400円小人240円 ミュージアム知覧との観覧共通券は ●大人600円小人400円 団体とは30名以上で2割引きです。 小人とは、小・中学生のみです。

※ミュージアムは毎週水曜日は休館します。

西郷恵一郎氏邸庭園

平山克巳氏邸庭園

佐多美舟氏邸庭園

森重堅氏邸庭園

平山亮一氏邸庭園

佐多民子氏邸庭園

佐多直忠氏邸庭園

知覧

薩摩の小京都

●西郷恵一郎氏庭園

面積208㎡。書院から見て左前方（東南隅）の枯滝、石組みを中心に、これを最高峰として両隅に山脈を形作る。中央を低くした西側の山脈は、さらに西方へと向かう程に高く変曲する仕組みの枯山水である。配石とサツキによる組み合わせはとりわけ至妙である。

●平山克巳氏邸庭園

宝暦から明和（1751～72）の頃に作られた書院の北庭で、面積277㎡ の枯山水である。外壁をなすイヌマキは連峰作りの大刈込みで、サツキと庭石からなる庭園の北隅が最高峰をなしている。また局部的には小刈込みとなって、岩島を配している。

●平山亮一氏邸庭園

天明年間（1781～89）の作と言われ、書院は嘉永年間（1848～54）に再建された。全庭を一本のサツキで覆う簡潔な素材である。東方に望む母ケ岳の遠景を取り入れた大刈込みの「借景園」であり、台形の切石は梅鉢などを載せるためのもの。面積は277㎡。

国指定「名勝」知覧麓庭園

知覧の麓地区は島津藩政時代に113の外城の一つとして栄えたところで、麓の整然とした道路は、第18代の知覧領主島津久峯公の時代に造られたもので、当時防衛を目的としたため十字路を避け、T字形や曲線で、遠くを見通せないように設計されました。庭は麓全体が母ケ岳を中心に、自然をよく取り入れた一つの庭園を形成しています。

7庭園は昭和56年2月国の「名勝」、周辺の18.6ヘクタールが、同年11月重要伝統的建造物群保存地区として国の選定をうけています。また、武家屋敷群との調和のとれた町並みは古風で落ち着きのある静かなただずまいをかもし出し、清流溝には鯉が遊泳するなど、訪れる人々の心に安らぎをあたえています。

●佐多美舟氏邸庭園

寛延4年（1751）の作と言われ豪華で面積も最大である（446㎡）。奥の中心に岩山、枯滝、石組みは築山の上部に石灯、下部平地に巨岩を配する。

●佐多民子氏邸庭園

大石に畜力運搬用の割れ目がある。水墨画的枯山水は他と同様だが、書院西北隅を立峰とする大刈込みは特異である。面積は245㎡。

●佐多直忠氏邸庭園

枯滝石組みの築山部を中心とする枯山水で書院の北庭、面積は275㎡ で木戸門入口に「びょうぶ岩」と称する唯一の独立した袖石垣がある。

●森重堅氏邸庭園

唯一の築山泉水様式で書院、土蔵共に寛保初年（1741）の作と言われる。池泉中央、168㎝ の穴岩を洞窟とし東岸の巨岩は奇岩怪石を表す。書院の濡縁に目を据え西南隅の岩頭を凝視すると、遥か山頂のみを遠望する。面積は233㎡。

薩摩半島の南部は
屈指の優良茶園地帯で
豊かな広がりを見せている。
秀麗な山容の開聞岳（九二二メートル）は
平和そのものである。
昭和二十年特攻隊員たちは
この山に向かって敬礼をし
山頂が見えなくなるまで振り返り振り返り
祖国に最後の別れを告げて飛び立ち
やがて眦（まなじり）をあげて
南の空に消えていった。